

質問事項		選択式回答	記述式回答
経済動向			
1	<p>2016年2月上旬から2月下旬にかけての経済状況について、関連する業界、地域等の現状やご自身の知見・経験等を踏まえ、3か月前(2015年11月上旬から11月下旬)と比べて良くなっているか、悪くなっているか選んでいただき、その理由をデータや具体的な事例とともに300字以内でご記入ください。その際、前年との違い等お気づきの点があれば併せてご記入下さい。なお、政府の景気認識については月例経済報告の中でお示ししているのをご参照ください。</p>		<p>足元の経済は三ヶ月前に比べて概ね横ばい圏内の動きを続けている。しかし、年初来の株価、為替等の国際金融市場の大きな動揺により、企業心理はどうしても慎重となっており、今後の投資や賃上げを巡って模様眺め気分を強めている。</p> <p>しかし、日本の企業の収益性は引き続き高く、今後にわかにその基調が崩れる懸念は小さい。また、日本企業の財務体質は世界の主要国の中でも相当健全な部類に入る。従って、今後世界経済が、混乱を脱し、新しい均衡に向かって再び歩みを始めれば、日本企業の投資や賃上げに向けての姿勢も積極味を帯びてこよう。</p>
2016年前半に取り組むべき課題			
2	<p>2016年前半において、記載した3つの課題に関し、特に強化・加速すべきとお考えになる取組について、具体的な推進方法や手法がありましたらご紹介下さい。</p> <p>また、これら3つには含まれないが、同様に重要だとお考えの課題がございましたら、その推進方法とあわせて具体的にご記載下さい。</p>	-	<p>日本経済の抱えるミクロ的課題 例えば介護離職ゼロといった政策課題に取り組んでいこうという政府の姿勢に国民は大きく期待している。</p> <p>しかし、そうした課題解決のために、一層の成長により実現しようとする姿勢が強すぎるように感じられる。いたずらに経済成長に依拠するのではなく、ミクロ課題一つ一つに必要な個別対策の積み重ねにより実現を図っていくほうが、確実に、国民にとっても達成を実感できるのではないかと。</p> <p>また、成長の実現を図るため、マクロ政策目標を高めに掲げ、それに向かって無理な政策対応を図っていくと、経済自体が不安定になり、かえって企業心理を萎縮させる結果となりかねない。</p>